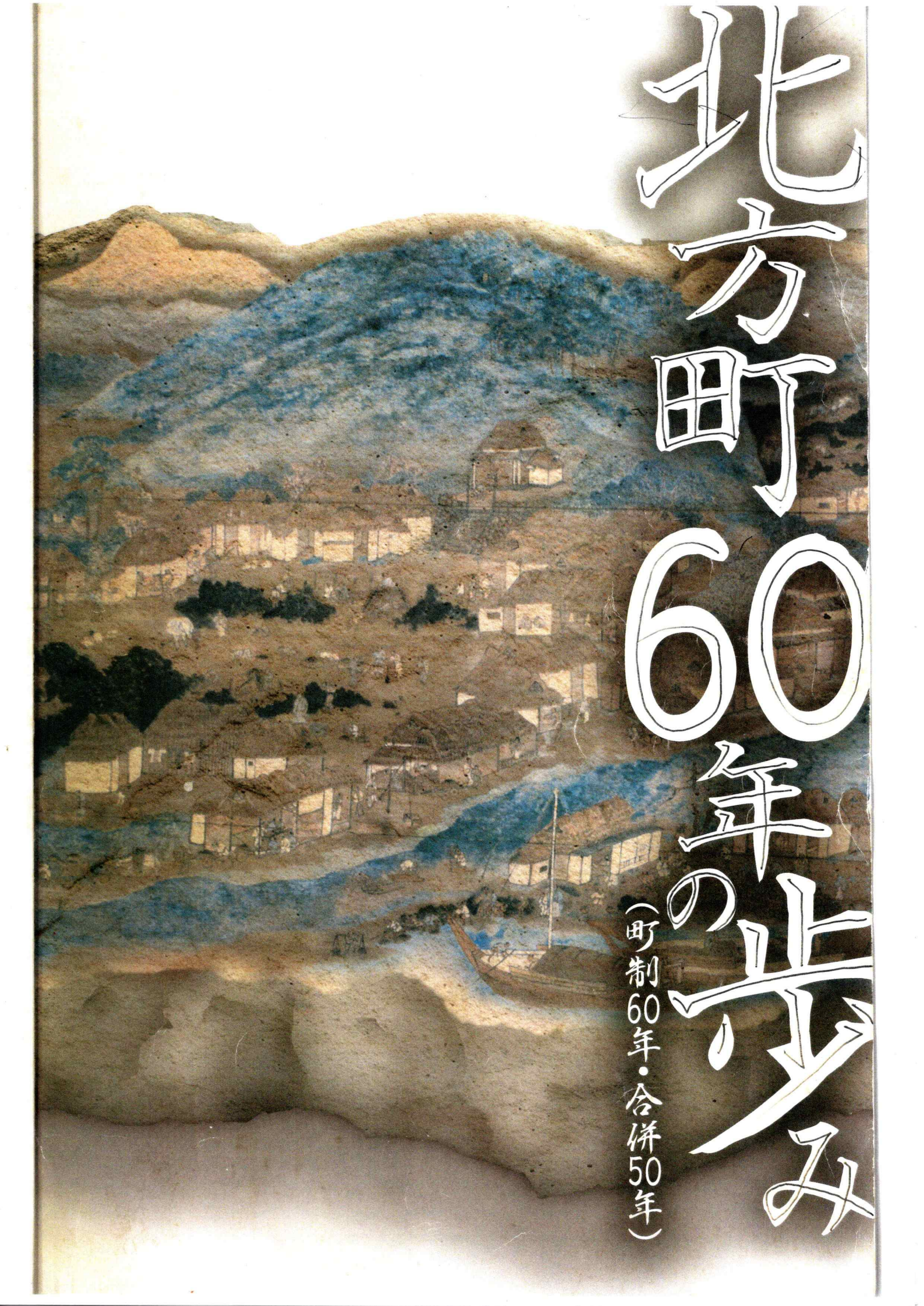
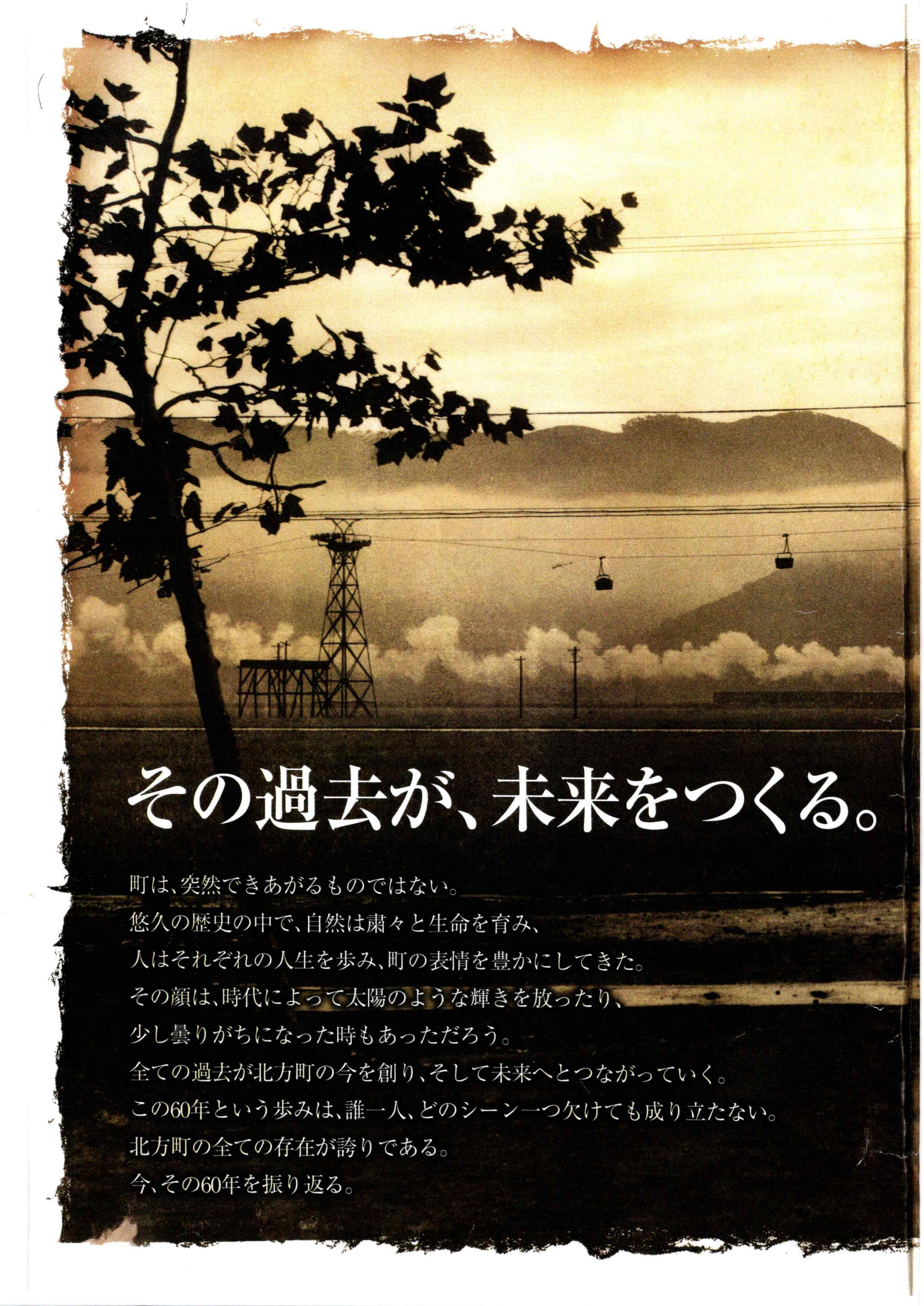




北方町 60年 の歩み

(町制60年・合併50年)



その過去が、未来をつくる。

町は、突然できあがるものではない。

悠久の歴史の中で、自然は粛々と生命を育み、

人はそれぞれの人生を歩み、町の表情を豊かにしてきた。

その顔は、時代によって太陽のような輝きを放ったり、

少し曇りがちになった時もあっただろう。

全ての過去が北方町の今を創り、そして未来へとつながっていく。

この60年という歩みは、誰一人、どのシーン一つ欠けても成り立たない。

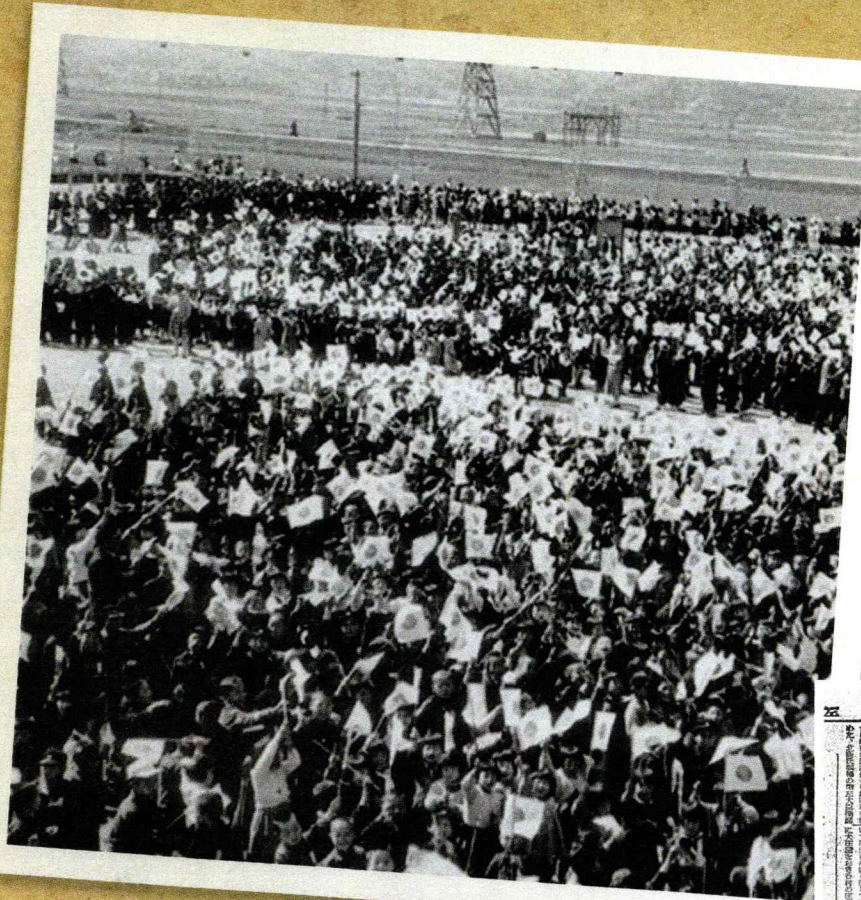
北方町の全ての存在が誇りである。

今、その60年を振り返る。

目次

北方町の誕生	P 03
年表 1944～	P 05
炭鉱の歴史	P 07
年表 1955～	P 11
思い出の母校	P 15
年表 1975～	P 19
北方町の思い出	P 23
故郷への想い	P 25
子供たちが描く未来の北方町	P 27
北方四季彩	P 29
データで見る北方町の推移	P 31
町長ごあいさつ	P 33

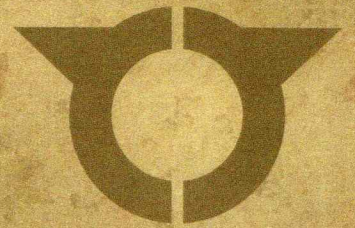
北方町の誕生



昭和19年4月29日に町制が施行され、北方村から北方町へ。昭和31年4月1日に北方町と橋下村の一部が合併し、現在の北方町が誕生した。

町の人口は約14000人。式典は町を挙げての盛り上がりを見せ、学校のグラウンドや沿道は小旗を振って誕生を祝う人々で埋め尽くされた。

左下の写真は昭和31年の橋下村との合併式典風景。右より3人目橋下村村長・岩永一氏、同6人目北方町長・諸石高次氏。



●昭和19年 北方の町制施行を報じる新聞
(昭和19年4月29日付 佐賀合同新聞より)

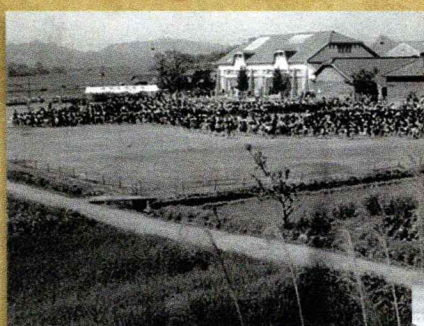
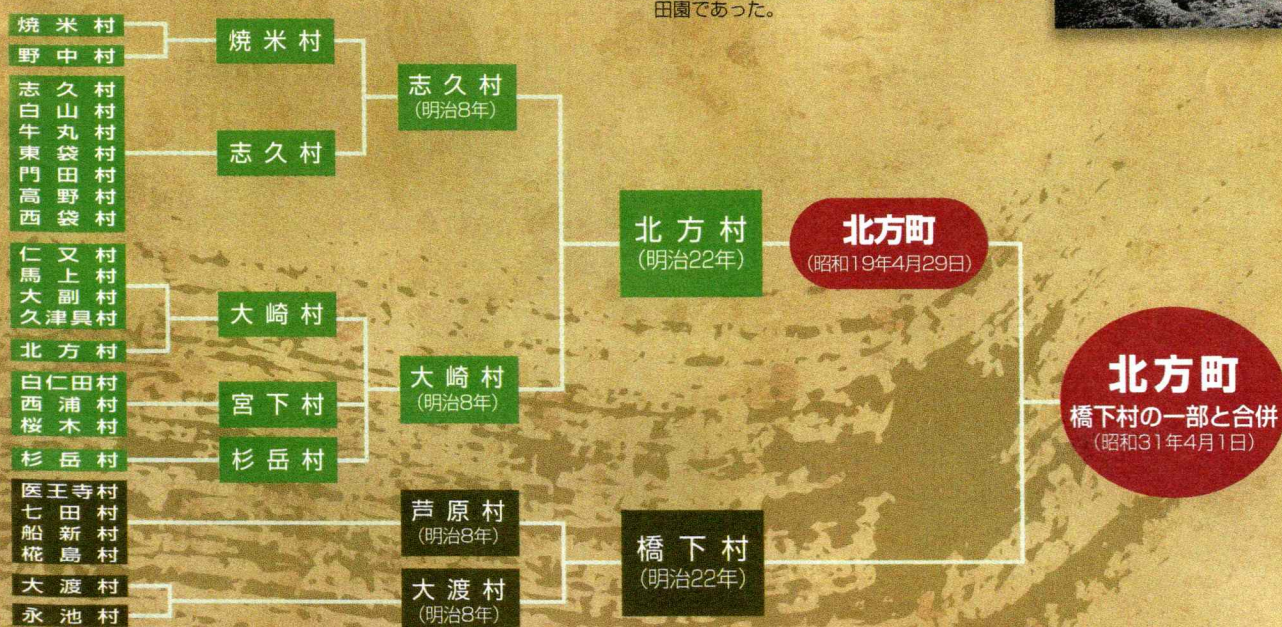


●長崎街道の
高野公民館付近

■ 北方町沿革

本町は、旧藩時代は多久3,300石の采地であり、この辺り一帯は下西郷と呼ばれ、明治維新前までは31の村に分かれて治められていました。これらの村は明治8年頃大崎村と志久村に統合され、明治22年町村制の改正により両村を合併して北方村と命名されました。その後、経済事情の好転に伴う石炭産業の発展により、人口も著しく膨張して、昭和19年4月29日に町制が施行され北方町が誕生しました。さらに昭和31年4月1日には、町村合併促進法により南に隣接する橋下村の一部6地区と合併し、面積27.25平方キロメートルとなり現在に至っています。

■ 村・町の移り変わり



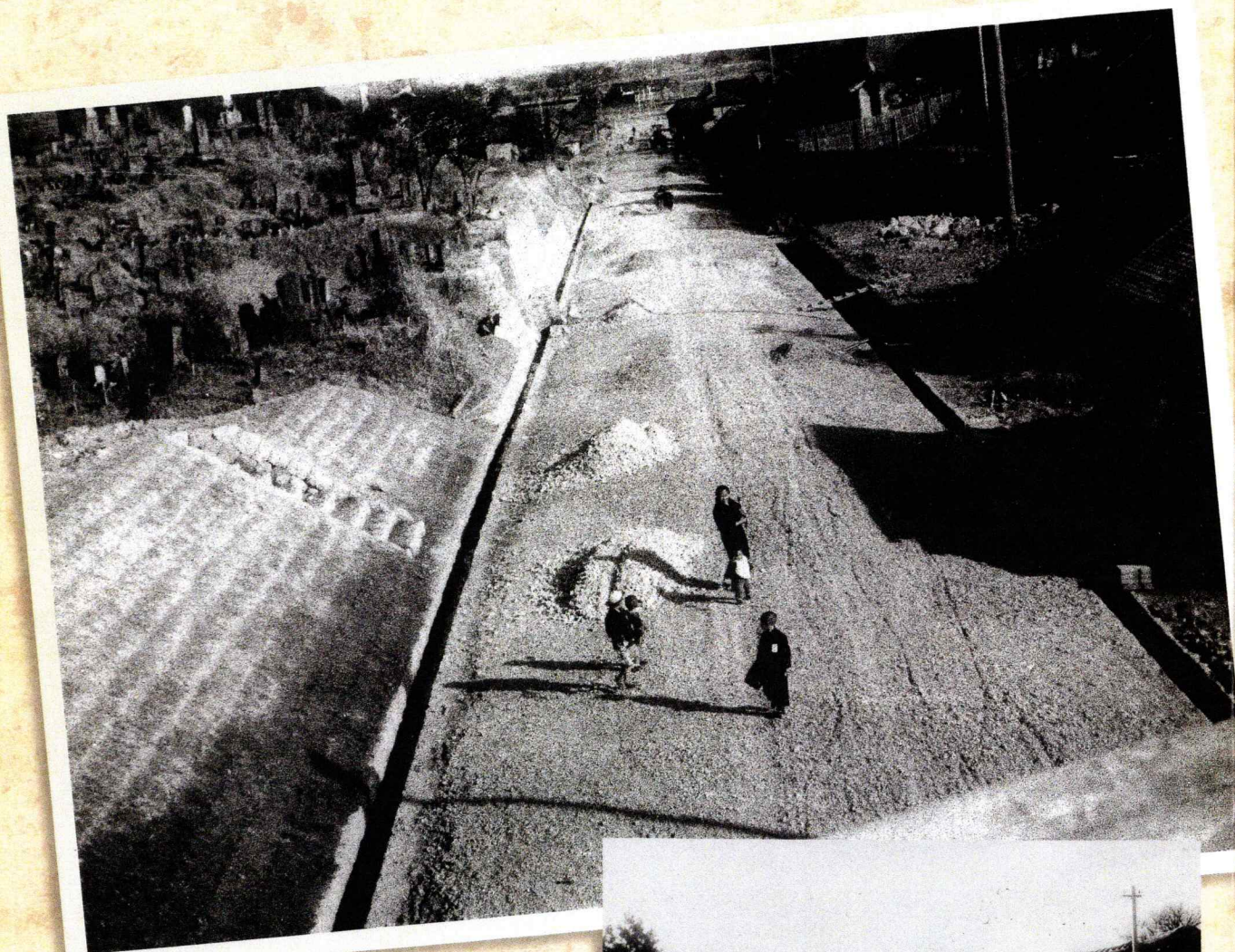
●北方小学校

合併式典に際し、北方小学校グラウンドに集まった町民の方々。奥の建物は小学校講堂で、現在の北方町スポーツセンター。右の写真は昭和23年頃のスナップで、グラウンドはまだ田園であった。



1944~1954

昭和19年～
昭和29年



●国道34号線

昭和24年頃、大町方面を望む国道34号線。左手は十三塚のある墓地。中央に並んで盛られた砂利の小山は、穴ができたときのための補修用として置かれたもの。当時“往還”と呼ばれていたこの通りは、交通量も少なく子供たちがのびのびと遊べた。

右の写真は、武雄方面を望む国道34号線。奥に見える橋のような建物は、北方炭鉱のトロッコが通っていた橋げたで、今は右側の橋脚だけが現存し、当時の面影を残している。



●十三塚バス停(昭和25年頃)

バスの時刻表は一時間に約一本。バスにブザーはなく、乗客は車掌に直接行き先を告げ、下車場所が近づいたら声をかけて降りていた。



●国道34号線
北方駅前付近

昭和20年、終戦を迎え新たな道へ進み出した日本。

北方町ではその4年後に国道34号が開通し、発展への助走を始めた。

戦後の復興期を、誰もがたくましく生きていた。

●北方町役場と役場内での仕事風景

かつてはこの役場裏の長崎街道沿いに北方村役場があった。新国道ができ、人口が増え、役場内も手狭になったため新国道沿いに北方町役場を新築。当時では珍しい洋風の建物であった。

役場内写真の手前が経済課、奥が厚生課。電話機は交換式で一台だけ設置されていた。



●記念式典で披露された女相撲甚句



●町制施行10周年記念式典(昭和29年4月29日)

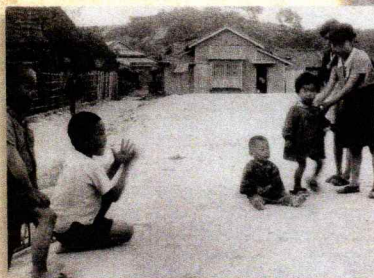
●焼米溜池

昭和24・25年頃。夏の溜池はプールとして賑わいを見せ、子供たちの格好の遊び場だった。また、ボートの料金は1回50円。佐賀県庁前お濠のボートより早くから有り、ここはデートスポットとしても人気が高かった。



●昭和20年代半ばくらいの子供たち

何をして遊んでいたのだろうか。中央の男の子は子供をおんぶしている(上の写真)。この頃、兄弟や年長組が小さな子の面倒を見るのは普通であった。



1944～1954 昭和19年～昭和29年

■北方町

- 昭和19年(1944年)
 - ・町制が施行され北方村から北方町となる
- 昭和20年(1945年)
 - ・久津具で列車空襲を受け死傷者出る
- 昭和22年(1947年)
 - ・北方町自治体警察発足(本ノ元志久駐在所)
 - ・6・3制施行により北方中学校誕生
- 昭和23年(1948年)
 - ・中学校校舎第一棟新築
 - ・北方町国民健康保険開始
- 昭和24年(1949年)
 - ・国道34号線開通
- 昭和25年(1950年)
 - ・北方町役場庁舎新築
- 昭和26年(1951年)
 - ・北方町自治体警察廃止
- 昭和27年(1952年)
 - ・豪雨により久津具孤立
- 昭和28年(1953年)
 - ・鷹茅焼却場建設(迫分)
 - ・大型台風により大水害(床上浸水633戸)
- 昭和29年(1954年)
 - ・町制施行10周年記念式典挙行
 - ・特別飢害上水道施設復旧工事(29年～31年度)

■世の中の動き

- ・連合軍によるノルマンディー上陸作戦発動
- ・広島・長崎に原爆投下
- ・終戦
- ・日本国憲法施行
- ・第1次中東戦争(パレスチナ戦争)
- ・朝鮮戦争勃発
- ・サンフランシスコ条約調印
- ・東京に日本初のスーパーマーケットオープン
- ・マリリン・モンロー初来日

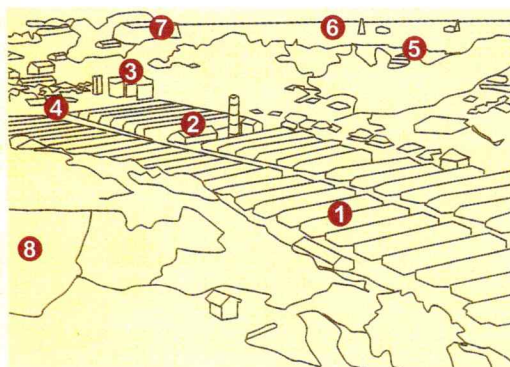
炭鉱の歴史

北方町の歴史は炭鉱の歴史ともいえる。戦後の復興期において、炭鉱住宅街に暮らす鉱員たちは日々懸命に働き、商店街は賑わいを見せ、炭鉱全盛期の町は豊かさに包まれていた。



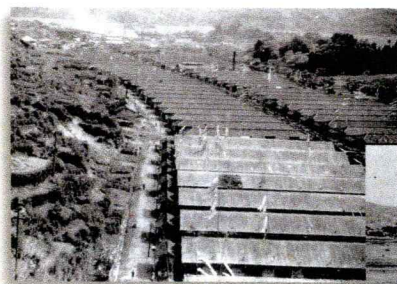
● 北方炭鉱

ポタ山から北方会館を望む北方炭鉱住宅街の風景。



- ① 5 軒長屋の
二坑炭鉱住宅街
- ② 共同浴場
- ③ 北方会館
- ④ 二坑マーケット

- ⑤ 稲主社宅
- ⑥ 西杵炭鉱ケーブル
- ⑦ 西杵炭鉱積込場
- ⑧ ポタ山



左の写真は5月頃、風に舞うこいのぼりがいくつも上がっているようすが見える。



手前は北方炭鉱保育園と広場。

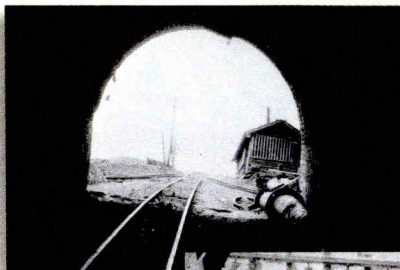


下の写真は稲主社宅。

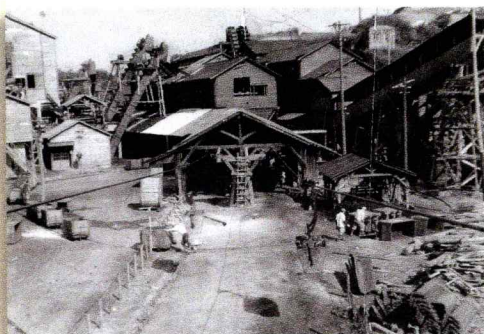
ポタ山が幾重にも重なり当時の北方炭鉱の大きさが推し量られる。



●北方炭鉱東坑入口



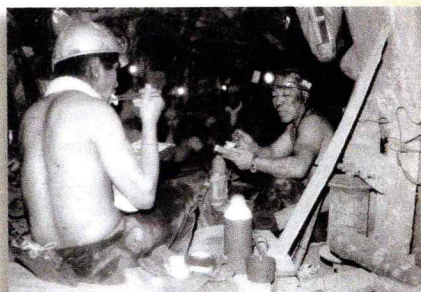
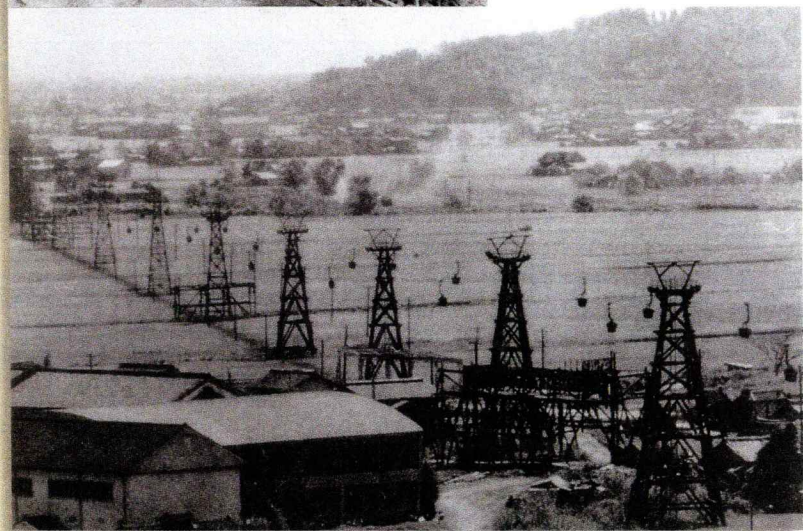
●炭鉱坑口風景



●西杵炭鉱ケーブル

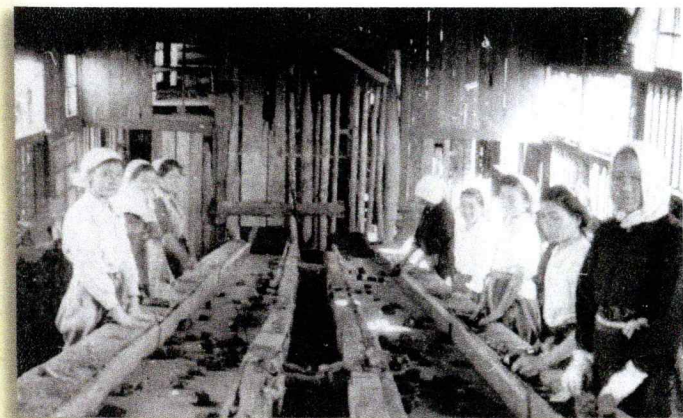
西杵炭鉱と石炭集積所をつなぐケーブル。全長約1.5km、16基ある槽は木製で、最も高いところで20mほどあった。左の写真は、ケーブルの始まり口で槽の高さは約2mあり、徐々に高くなっていった。

西杵炭鉱は昭和24年頃に最盛期を迎え、当時従業員1000人ほどが勤務していた。



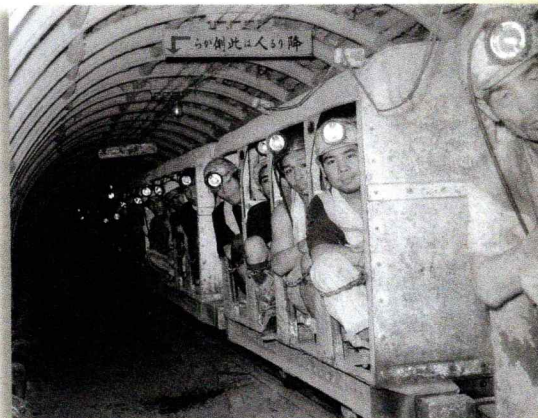
●炭鉱坑夫

つらくきびしい坑内労働の中、坑夫たちは戦後の日本のエネルギー確保のため、家族のため、懸命に働いた。



●炭鉱選炭場

水洗所で洗われた石炭はベルトコンベアでここに運ばれ、交代制で勤務する女性の手作業により、選り分けられていた。



●西杵炭鉱の人車

坑夫たちはこの人車に揺られながら坑内に向い、日々掘削作業に励んだ。車内ではどんな会話が交わされていたのだろう。

炭鉱の歴史



●二坑マーケット広場風景

娯楽の少なかった時代、大道芸人の芸を見て楽しむ人たち。後ろに建つ木造モルタルの「北方会館」は、当時としてはモダンな建物として親しまれ、チャンバラものなどの日本映画が上映された。写真右奥の三角屋根の建物が二坑マーケット。(昭和26年)
(写真左)紙芝居も子供たちの楽しみの一つ。お金を払って水飴をもらい、それをなめながら語り手の話に聞き入った。



●露店の商品に夢中になる子供たち(昭和20年代前半)



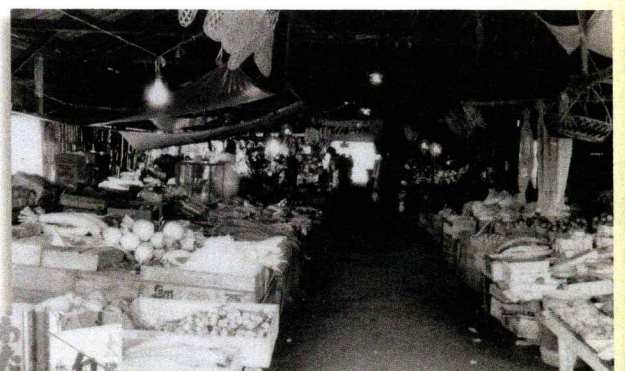
●旧国道(長崎街道)沿いの商店

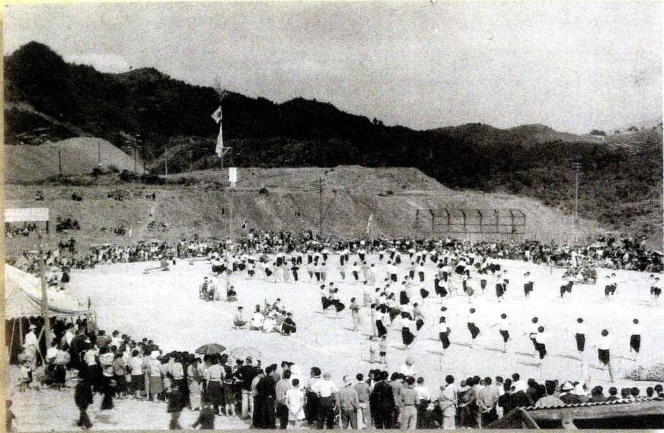
昭和20年代前半くらいまで、長崎街道はメインストリートとして多くの商店が軒を連ねていた。写真手前の商店は「横田呉服店」。その隣の「中島ナンデモ屋」は文具や化粧品なども揃う、今でいうスーパーマーケットのような存在であった。



●二坑マーケット内

数店の露店から始まったマーケットは、炭鉱などに暮らす人々の台所として重宝された。





●鉱業所主催の運動会



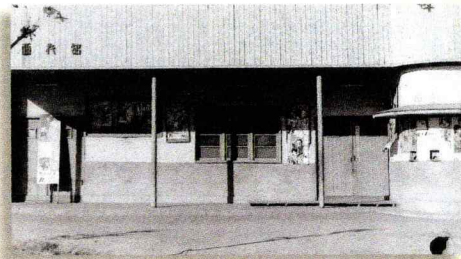
●地区対抗バレーボール大会

1964年の東京オリンピックで「東洋の魔女」が一世を風靡すると、バレーボールは女性の間に大流行りし、炭鉱でも大会が開催されていた。



●バスでの遠出

炭鉱行事として、唐津などへ海水浴に行くのも従業員の楽しみ。多いときはバス40台ほどで出かけた。



写真は西杵会館の前身の「西杵館」。

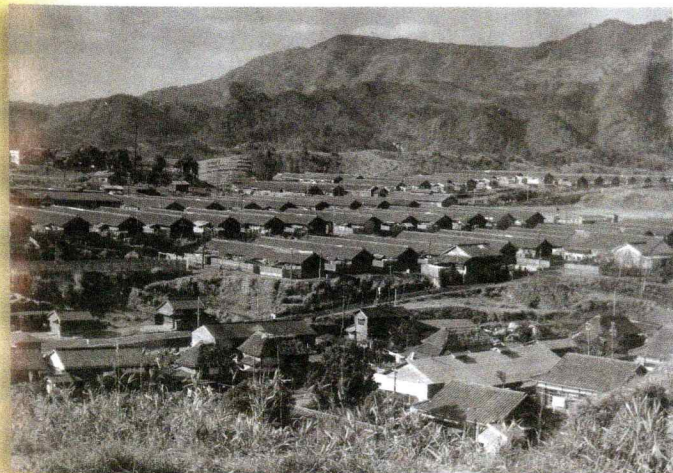


●西杵会館

昭和30年代前半に完成した西杵会館は、映画館として多くの客を動員した。「西杵会館」の隣には武道場があり、その隣には西杵炭鉱直営の西杵幼稚園があった。



●西杵住宅(西区)



●杵島座

戦前より、芝居小屋として多くの入客を魅了した杵島座は、故美空ひばりさんが子役時代に訪れたこともある。杵島座が建つ場所は現在の保健センターのあたり。

1955~1964

昭和30年～
昭和39年



●東京オリンピック
聖火ランナー

高度経済成長の只中にある日本で、アジア初となった東京オリンピック(1964年)。北方町では国道34号線を聖火ランナーが走り、沿道は日の丸の旗で埋め尽くされた。この写真は、カラー写真がまだ一般に普及していない当時のもので、貴重な記録である。



●女相撲甚句(昭和30年頃)

北方小学校創立60周年を記念して行われた女相撲。当時、記念行事などがあると頻繁に女相撲でその艶姿を披露し、会場を沸かせた。



●託児所

農繁期に、一時的に農家の子供を預かる託児所。近所に住む農家以外の主婦が保育代わりに子供達の面倒を見ていた。(昭和30年頃)

北方町の経済と繁栄を支えてきた杵島炭鉱や北方炭鉱が
相次いで閉山し、石炭産業に陰りが見え始めた。

一方で、高度経済成長をひた走る日本には、変革の風が吹き荒れた。

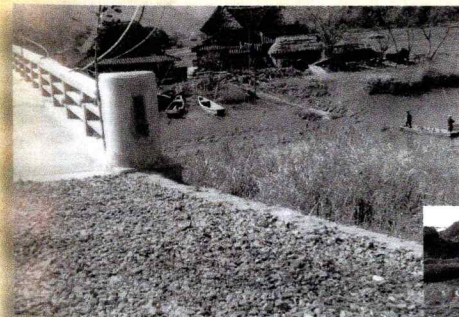


●杵島第一魚市場前の広場

早朝は魚を買い求める人々で賑わい、
日中は子供たちの遊び場となった。野球
遊びの道具は、布を巻いた手作りのボー
ールと、炭鉱で使われていた坑木をバット
に利用していた。後ろの白壁の建物は旧
北方郵便局。(昭和30年代)

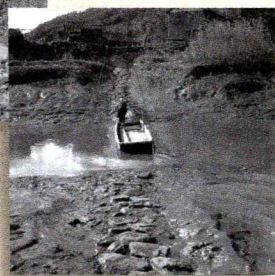


●武雄方面を望む国道34号線 (現・佐賀銀行前付近)



●花島橋ができた昭和35年頃

奥に見える船は、近隣の人々の重要な足とし
て活躍した「花島の渡し」。水が引いている時は、
船をそのまま橋がわりにして渡っていた。町内
には、東に「花島の渡し」、西には現高速道の下に
あった「七田の渡し」が重宝されていた。



●七田の渡し



●昭和36年頃の鉱害復旧作業

炭鉱による地盤沈下により雨水などが溜まり、
排水は不十分であった。農地として効用を回復
するための復旧作業が行われた。

1955～1964 昭和30年～昭和39年

■北方町

昭和30年(1955年)

・小学校校舎改築

昭和31年(1956年)

・町村合併

(橋下村の一部と合併)

橋下分校を北方東小学校
として独立

昭和32年(1957年)

・北方町役場橋下出張所廃止

・上水道芦原水源地完成

昭和33年(1958年)

・町道東道線新設工事

(33年～35年度)

・町道東道線柵島橋工事着工

昭和34年(1959年)

・北方小学校プール竣工

昭和35年(1960年)

・北方町役場会議室改築

昭和36年(1961年)

・北方中学校校舎新築

・杵島炭鉱(株)

北方炭業所閉山

・新農村建設事業実施

(36年～38年度)

昭和37年(1962年)

・交通安全の町宣言

・集中豪雨により災害救助法の
適用を受ける

(床上浸水365戸)

・白仁田地区飲料水供給施設
工事施工

・地籍調査事業開始

(37年～55年度)

昭和38年(1963年)

・北方東小学校プール竣工

・消防団本部消防ポンプ

自動車購入

・北方中学校二階床落下

負傷者出る

昭和39年(1964年)

・杵東地区衛生処理場組合設立

・北方中学校体育館落成

・北方炭鉱株式会社閉山

■世の中の動き

・1円硬貨・50円硬貨
発行

・日ソ国交回復

・長島茂雄巨人軍入団

・一万円札発行

・皇太子御成婚

・ソ連のガガーリン
少佐、人類初宇宙
飛行に成功

・キューバ危機
・堀江謙一さん、単独
太平洋ヨット横断

・横綱大鵬、史上初
6場所連続優勝

・東京オリンピック

1965~1974

昭和40年~
昭和49年



●松本和夫町長初登庁風景と「夜の町長室」

昭和49年に松本和夫町長、初登庁。以来、町民の生の声を町政に反映しようと「夜の町長室」を開設し、現在まで続けられている。



●干ばつによる給水

昭和42年の大干ばつにより、飲料水の緊急給水が実施された。この年は集中豪雨の被害にもあった。



●北方町役場庁舎新築工事。
写真下は杭打ち風景
(昭和44~45年)



佐賀県最後の炭鉱閉山により石炭産業は終わりを告げた。
町では役場や公民館、町営住宅などの公的施設が次々と落成し、
新たなステージに向って町づくりが進められた。



●昭和40年の杵島郡町村対抗伝大会の様子
(現・東体育館付近)



●昭和45年(3月25日)

農村集団自動電話開通式典。当時の日本電信電話公社は、農山漁村の無電話部落解消のため電話設置の普及に努めており、北方町にも念願の「農集電話」が開通した。各戸に電話が入り、農村地帯に福音をもたらした。



●北方東幼稚園開園(昭和45年)



●北方町公民館

昭和43年に落成。2階では結婚式の披露宴が行われることもあった。

●移動役場(昭和47年)

普段なかなか役場へ来られない町民の方々のために、役場職員が現地へ外出し、住民の声を聞いた。



●西杵炭鉱閉山式

昭和47年、佐賀県最後の炭鉱が幕を閉じた。



●役場前歩道橋

国道34号線の交通量が増え、通学する小学生の事故を避けるため歩道橋がかけられた。上の写真は昭和49年完成当時の式典の様子。右の写真は歩道橋の上から見える国道34号線。今とは違う静けさを感じられる。



1965～1974 昭和40年～昭和49年

■北方町

昭和40年(1965年)

・町営住宅高野団地完成

昭和41年(1966年)

・杵島山パイロット事業

(41年～43年度)

・町営住宅小原団地建設

(41年～45年度)

昭和42年(1967年)

・集中豪雨により災害救助法の適用を受ける

(床上浸水252戸)

・大干ばつにより飲料水の緊急給水実施

(給水区域外)

昭和43年(1968年)

・北方町公民館落成

昭和44年(1969年)

・北方町役場庁舎新築工事着工

・明治鉱業(株)西杵鉱業所閉山

昭和45年(1970年)

・北方町役場庁舎落成移転

・農村集団自動電話開通

・過疎地域の指定を受ける

・北方東幼稚園開園

・田中関一町長現職で死去

昭和46年(1971年)

・町営住宅浦田団地建設

(46年～48年度)

昭和47年(1972年)

・杵藤地区広域市町村圏組合

発足(2市10町)

・国鉄合理化により北方駅

無人化

・北方小学校火災

・新明治鉱業株式会社閉山により

佐賀県最後の炭鉱なくなる

・北方小、北方東小の統合決定

昭和48年(1973年)

・老人福祉センター

「長寿園」開園

・電話自動化となる

・杵藤地区ゴミ処理センター

開業

昭和49年(1974年)

・統合小学校開校

・第1回「夜の町長室」開設

■世の中の動き

・日韓基本条約成立

・ビートルズ来日

・第3次中東戦争

(六日戦争)

・三億円事件

・人類初の月面着陸

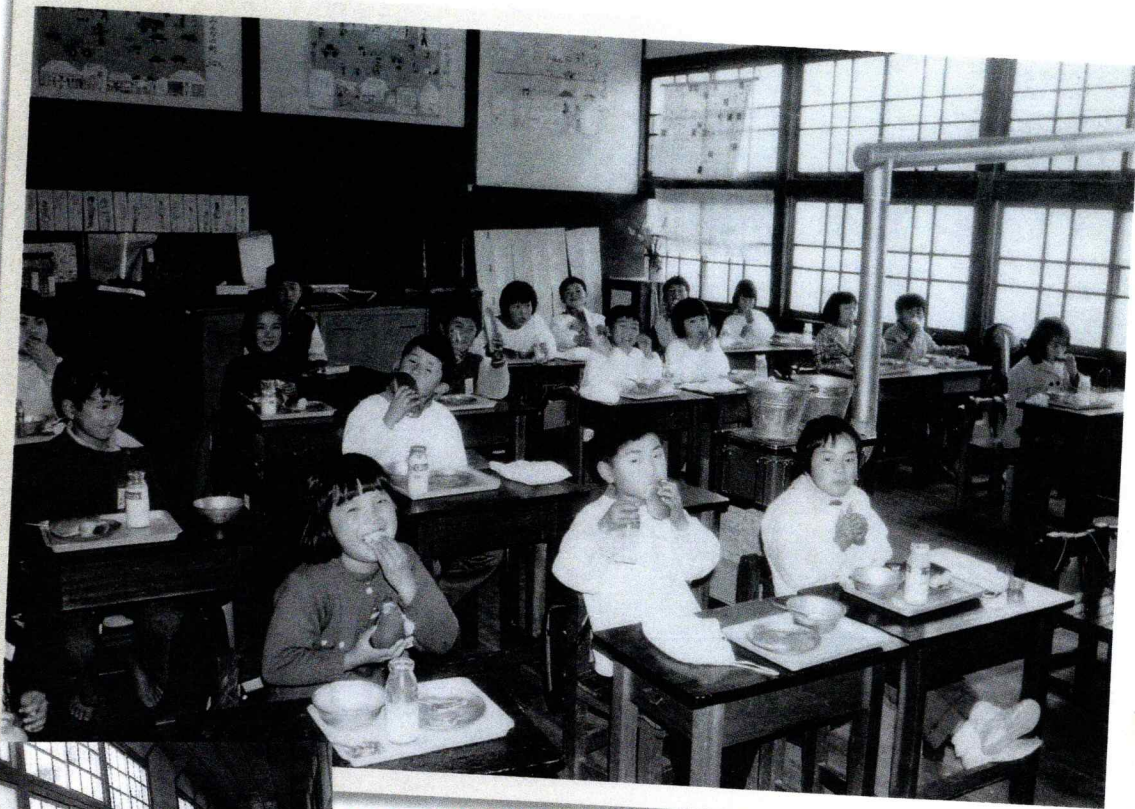
・大阪万博

・沖縄返還

・石油危機

思い出の母校

時代の変化と共に、学舎も姿、形を変えながら多くの卒業生を送り出した。学ぶことの喜び、恩師への感謝、かけがえのない友情、そういった目に見えないものは、今も昔も変わらない。



●北方東小学校 給食風景
(昭和44年頃)

給食は子供たちの大きな楽しみ。定番のコッペパンをほおばる顔に笑みがこぼれる。
左の写真は一列になって慎重に給食を運ぶ当番の子供たち。



●北方東小学校
(昭和48年)

この翌年北方東小学校が廃止となり、北方小学校に統合された。写真右上に見えるプールは今でも残されている。



●小学校登校風景(昭和30年後半頃)

上級生の見守る中、集団登校する小学生。この道路は現在の県道武雄福富線で、写真奥が武雄方向、手前が白石方向で現在の橋下駐在所前の三差路。

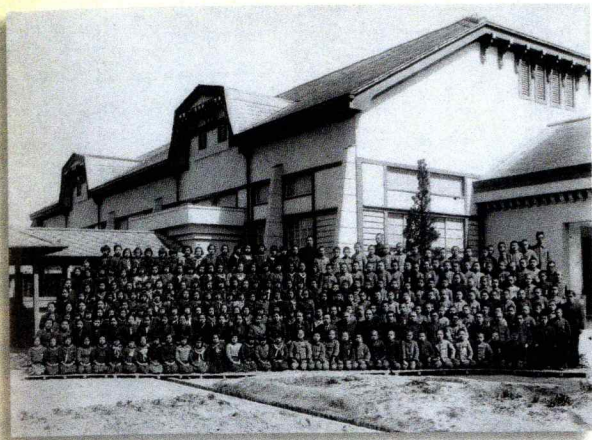
●小学生対抗の相撲大会

相撲場で、身を乗り出して勝敗の行方を見守る子供たち。



●北方東小学校運動会

応援に華を添えるかわいいバトン・トワラーたち。



●北方国民学校

明治29年に北方尋常小学校が設立され、昭和16年、「国民学校令」公布に伴い北方村立北方国民学校が発足した。戦後の昭和22年、6・3制の新学制発足により、北方国民学校は廃止となり北方町立北方小学校が発足した。写真は北方国民学校6年生の卒業写真(昭和18年3月)。



●卒業記念植樹
(昭和27年)

記念に柳を植樹する卒業生。写真は現在の北方スポーツセンターのあたり。



●北方小学校 火災

昭和47年6月の屋根発生した火災は、またたく間に校舎を呑み込んだ。鎮火後、父兄のみなさんや自衛隊の方々の協力により整備された校舎跡(写真右)。小学生は一時中学校を借りての授業となった。



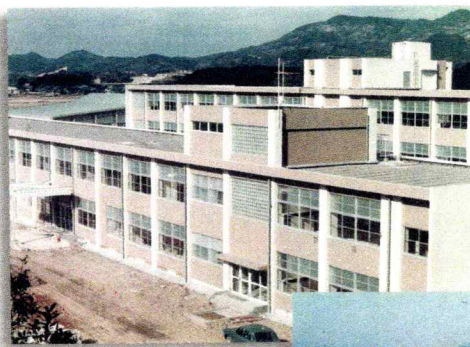
●北方小学校5年生のクラスマッチ(昭和44年)

クラス内の一体感や勝敗の喜び、悔しさを皆が体験したポートボール。



●北方小学校校歌発表会

昭和50年に中原勇夫先生作詞、富永定先生作曲「北方小学校校歌」の発表会が行われた。



●北方小学校

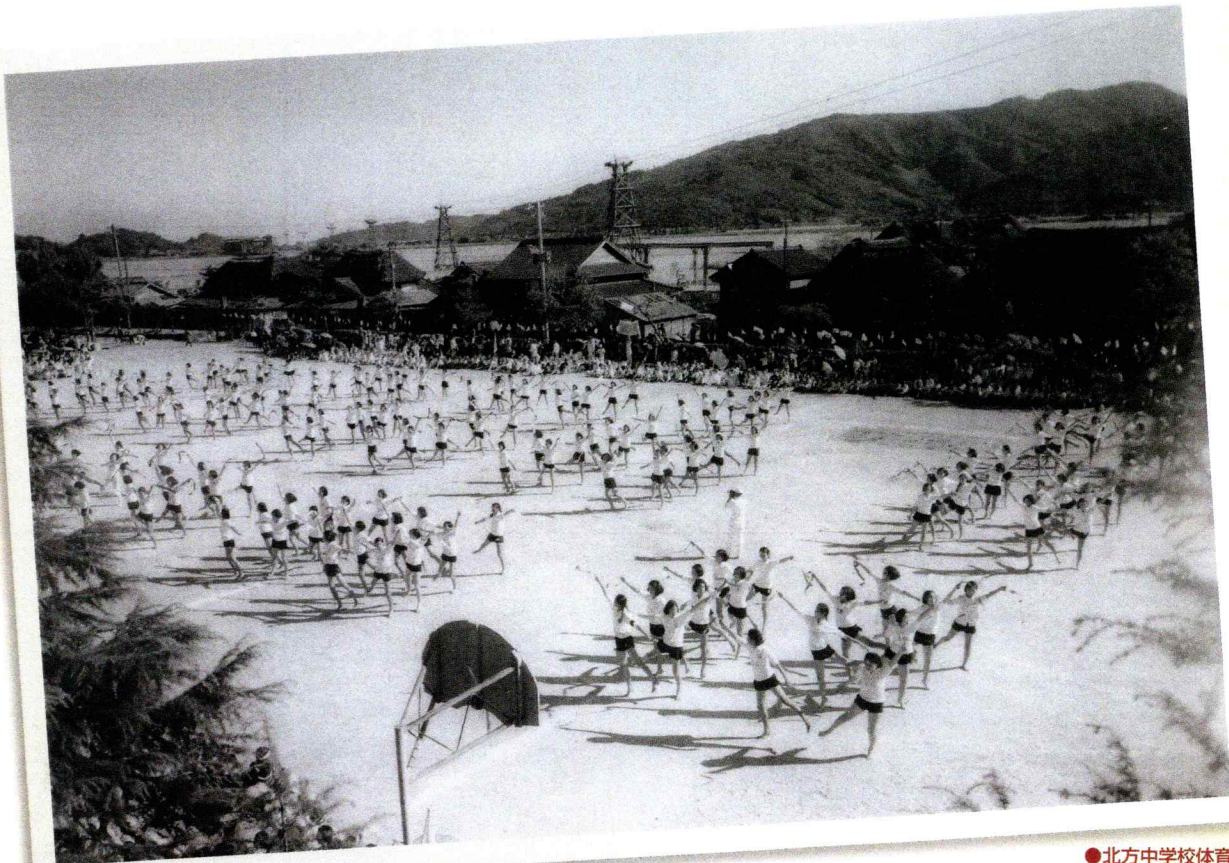
昭和49年に北方小学校、北方東小学校が統合され新校舎が落成した。



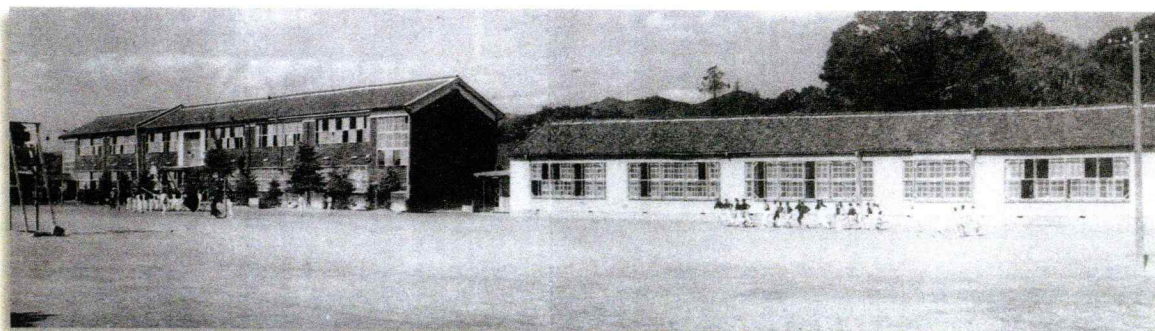
●北方小学校 入学式

落成した校舎は一部工事中のため、その年の入学式の受付は屋外で行われた。

思い出の母校



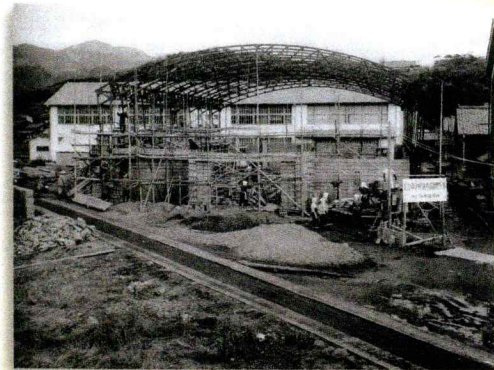
●北方中学校体育祭
大ぜいの父兄の前で演技する生徒たち。



●北方中学校(昭和36年)

●思い出のクラブ活動

昭和46年卒業アルバムより。生花部やエンジンなどを扱う技術部があった。



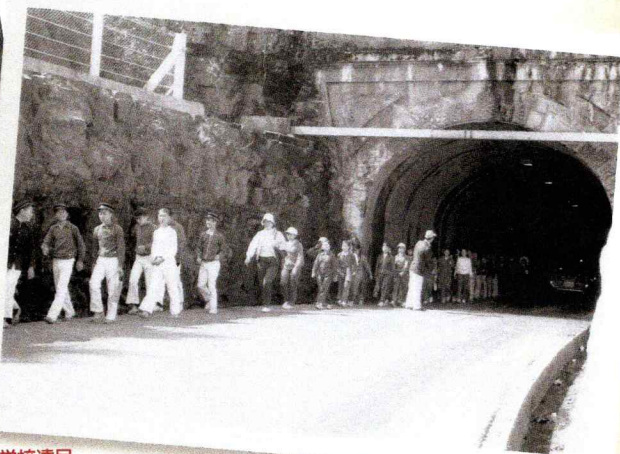
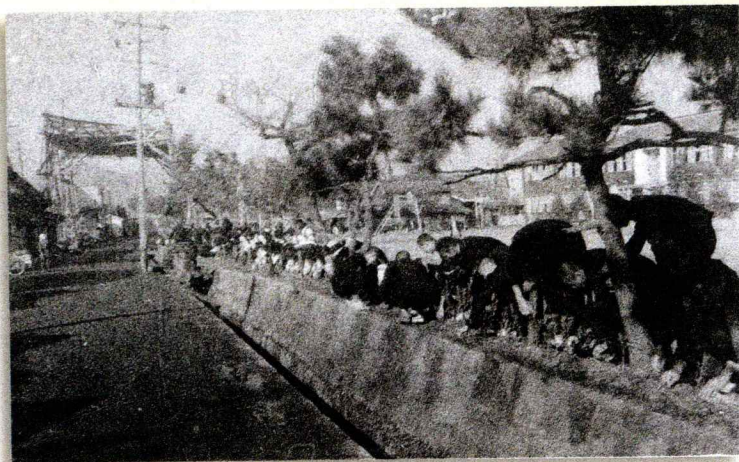
●北方中学校体育館建築風景(昭和39年)

着々と工事は進み、昭和39年に落成した。丸い屋根が特徴で、現在も「西体育館」として使われている。

●北方中学校生徒による記念植樹
(昭和36年頃)

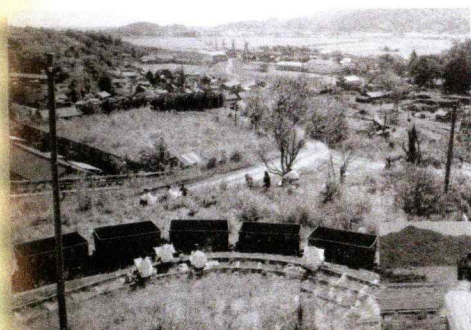
長崎街道の石垣に沿って、記念の植樹をする生徒たち(現北方町中央公民館前)。

後方上空に見えるのは西杵炭鉱ケーブルのバケット。また、道路をまたいでいる櫓は、道路への石炭落下を防ぐために建てられたもの。



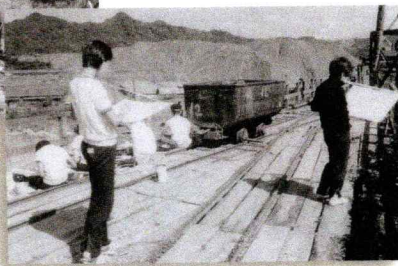
●北方中学校遠足

多久の西溪公園へ、新入生歓迎の春の遠足。写真左は西杵のボタ山わきを通りながら公園へ向うひとコマ。写真右は旧馬神トンネルを通っての帰りの風景。



●中学校スケッチ会(昭和47年)

佐賀県最後の山(西杵炭鉱)を思い出に残そうとスケッチをする生徒たち。



●登校風景

交通量が増える中、生徒は大人たちに見守られながら通学した。

大きな駅に各地方から集まり、集団で列車に乗り込んだ集団就職列車。



●北方中学校造成工事

昭和55年から56年度にかけて建設。昭和57年には体育館も完成した。



●集団就職風景

集団就職は日本の高度経済成長期に盛んに行われ、中卒者は“金の卵”と呼ばれて都市部の企業に迎えられた。北方駅には両親や学友も見送りにやって来て、別れを惜しんだ。



1975~1990

昭和50年~
平成2年



●九州横断自動車道中心杭打ち式典の様子(昭和52年)

昭和57年に工事が着工した当時は、九州横断自動車道として工事が始まった。



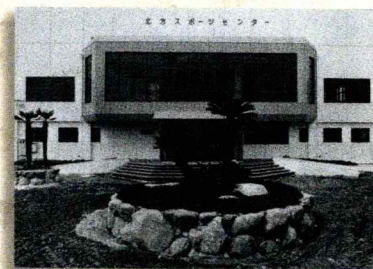
●昭和50年から5年かけて
建築された町営西杵団地

松本和夫町長着任後初の大きな取組みとなった西杵団地は、町の活性化のためニュータウン構想の一環として建設されたモダンな建物であった。



●長崎自動車道武雄北方IC開通(昭和62年)

開通を記念し、様々な団体がハイウェイでのウォーキングやマラソン大会を実施。平成元年に武雄バイパス開通式が行われ、平成2年には、鳥栖ー長崎間の全線が開通した。



●昭和52年に完成した
北方スポーツセンター



●サン・スポーツランド北方落成記念式典(平成2年)



●杏花苑(昭和62年落成)

●北方中央公民館(平成元年落成)

経済成長は安定を見せ、北方町は町制施行30周年を迎えた。
さらに武雄北方ICの開通で交通の利便性は一気に高まり、
公共施設の整備も進んでさらなる地域活性を遂げた。

●新橋架橋の架け替え工事

名残惜しくもその長い歴史を閉じようとする旧新橋と、生まれ変わった新橋。昭和56年に完成。



●全国北方町姉妹町縁組締結

佐賀県・岐阜県・宮崎県の「北方町」が同じ町名という縁で姉妹町の縁組を締結。調印式は岐阜県で行われた。(平成元年)



●北方最大となった平成2年の大洪水

集中豪雨により六角川が氾濫。北方町をはじめ、川沿いの町に多くの被害をもたらした。



1975～1990 昭和50年～平成2年

■北方町

昭和50年(1975年)

- ・町営球場、ナイター施設完成
- ・町営住宅西柵団地建築(50年～55年度)
- ・バレー・テニスコート各二面完成
- ・杵藤地区広域圏葬斎公園業務開始

昭和51年(1976年)

- ・志久農免道路舗装工事(51年～54年度)

昭和52年(1977年)

- ・九州横断自動車道中心杭打ち、測量開始
- ・運動公園完成
- ・北方スポーツセンター完成

昭和53年(1978年)

- ・町制施行30周年記念式典挙行
- ・異常渇水(かんばつ)で上水道深夜断水(1月～2月、4月～6月、9月)
- ・水田利用再編対策事業(減反)始まる(53年度～現在)

昭和55年(1980年)

- ・北方中学校建設(55年～56年度)
- ・町史編さん委員会発足
- ・集中豪雨による災害救助法の適用を受ける(床上浸水279戸、床下浸水426戸)

昭和56年(1981年)

- ・新橋架橋完成・北方音頭発表

昭和57年(1982年)

- ・北方中学校新築移転
- ・北方中学校体育館完成
- ・九州横断自動車道工事着工

昭和58年(1983年)

- ・町民プール建設(58年～59年度)
- ・志久七囃子舞浮立を北方町重要文化財(無形民俗)に指定

昭和59年(1984年)

- ・杵藤地区環境センター完成
- ・非核平和の町宣言

昭和60年(1985年)

- ・町花・町木制定
- ・六角川新橋上流激甚災害特別法適用。部分の改修工事完成
- ・北方町史上・中巻発刊
- ・東体育館完成
- ・北方東幼稚園開園

昭和61年(1986年)

- ・町制40周年合併30周年記念式典挙行
- ・町立幼稚園新築完成

昭和62年(1987年)

- ・長崎自動車道武雄北方IC開通
- ・特別養護老人ホーム「杏花苑」開所
- ・北方町史下巻発刊

昭和63年(1988年)

- ・広域消防本部新築完成

平成元年(1989年)

- ・北方中央公民館完成
- ・武雄バイパス開通式
- ・全国北方町姉妹町縁組調印式(岐阜県)

平成2年(1990年)

- ・集中豪雨による六角川激甚災害指定(北方町大洪水)7月1日23時～7月2日9時 310m/分
- ・長崎自動車道全線開通(島橋～長崎間)
- ・ふるさと創生事業街路灯57基設置
- ・「サン・スポーツランド北方」完成
- ・全国北方町姉妹町第2回交流会
- ・諸石洋一氏(ブラジル在住)表敬訪問

■世の中の動き

・ロッキード事件

・日航機ハイジャック事件

・日中平和友好条約調印

・イラン・イラク戦争

・ホテル・ニュージャパン火災

・東京ディズニーランド開園

・グリコ・森永事件

・日航ジャンボ機墜落

・チェルノブイリ原発事故

・国鉄民営化

・ベルリンの壁崩壊

・イラク軍がクウェートに侵攻

1991~2005

平成3年～
平成17年



●きたがた四季の丘公園開園(平成8年)

炭鉱や農業に関して分かりやすく展示された資料館も同時に開館(写真1)。

平成10年には大渡農村公園が開園し(写真2)、平成12年には四季の丘公園に水辺広場(写真3)が整備された憩いの場、レクリエーションの場として広く町内外に親しまれている。



●資料館(写真1)



●資料館1F



●資料館2F



●大渡農村公園(写真2)

●水辺広場(写真3)



新世紀の幕が開け、ハード・ソフト両面での町づくりは大きな実りをもたらした。2005年、武雄市・山内町と合併調印式を迎え、北方町はさらに新たな可能性に向けて歩み出した。



●保健センター(平成4年落成)



●新庁舎落成(北方町役場)
約2年の工期を経て平成8年に完成した。



●世界・森の博覧会(平成8年)

約255万人の入場者を迎えた「世界・森の博覧会」での「北方町の日」イベント。



●ぼた山FIESTA in きたがた

県外からも参加がある文化・スポーツイベント。現在は「四季の丘フェスタinきたがた」の名で開催。



●橋下地区浄化センター(平成15年)

農業集落排水事業で整備された浄化センター。



●合併協定調印式(平成17年)

1991~2005 平成3年~平成17年

■北方町

平成3年(1991年)

- ・台風17号、19号による風倒木災害
- ・保健センター新築工事
- ・安全祈願祭
- ・全国北方町姉妹町第3回交流会

平成4年(1992年)

- ・保健センター落成
- ・全国北方町姉妹町第4回交流会
- ・出生祝金支給条例制定される
- ・北方町基本構想計画完成

平成5年(1993年)

- ・きたがた四季の丘公園整備工事始まる
- ・北方町防災無線通信設備開局
- ・武雄、山内、北方休日急患センター開所
- ・北方町在宅老人デイサービス(B型)実施
- ・一人暮らし緊急通報システム設置
- ・全国北方町姉妹町第5回交流会
- ・企業誘致「コヤマエアゾール工業(株)」落成

平成6年(1994年)

- ・庁舎増築工事始まる
- ・全国北方町姉妹町第6回交流会
- ・湯水対策本部設置(7.20)
- ・防災溜池工事永池地区定礎式
- ・杵島山道路開設記念除幕式
- ・肥前歴史街道いきいき道中in北方開催
- ・ぼた山FIESTA inきたがた開催

平成7年(1995年)

- ・農業構造政策推進団の知事賞受賞(久津貝地区)
- ・杵島橋開通
- ・ぼた山FIESTA inきたがた開催
- ・西日本選手権ママさんソフトボール大会開催
- ・交通死亡事故ゼロ1,000日達成

平成8年(1996年)

- ・世界・森の博覧会開催(7/19~10/13)
- ・新庁舎落成
- ・全国北方町姉妹町第7回交流会
- ・きたがた四季の丘公園開園
- ・ぼた山FIESTA inきたがた開催

平成10年(1998年)

- ・大渡農村公園の水辺公園完成

平成12年(2000年)

- ・ケーブルテレビ供用開始

平成13年(2001年)

- ・新給食センター完成

平成15年(2003年)

- ・橋下地区浄化センター供用開始

平成17年(2005年)

- ・合併協定調印式

■世の中の動き

- ・湾岸戦争勃発
- ・ソ連崩壊

- ・スペースシャトル「エンデバー」に毛利衛宇宙飛行士搭乗

- ・サッカーJリーグ開幕
- ・皇太子御成婚

- ・夏の甲子園で佐賀商全国制覇

- ・阪神大震災
- ・地下鉄サリン事件

- ・フーテンの寅さんこと渥美清さん死去

- ・二千円札発行

- ・米中枢部に同時多発テロ

- ・愛知万博(愛・地球博)

北方町の思い出



北方町の歴史は、この町で暮らしてきた一人ひとりの人生が作ってきたともいえる。子供の頃、青春時代、大人になってから、どんな日々を過ごし、何を感じながら現在を築いてきたのか。北方町をずっと見てきた町内在住の方に語っていただいた。

北方町で暮らして60年あまり経ちますが、これまでを振り返ってみますと波瀾万丈の人生でした。終戦とともに出身地の小城へ戻り、旧制中学の2年の時に転校で北方町へやって来たのですが、なにせ戦後の混乱期でしたから、私の青春時代は苦難の連続といえますか、生きることに必死でした。土木作業員などあらゆる仕事を転々としてましたよ。

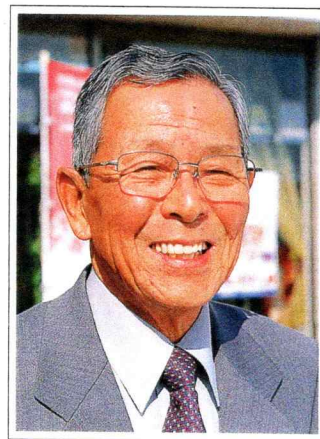
転機が訪れたのは32・3歳の頃でしょうか。酒屋で働いていたときに、これまでの過去はきれいさっぱり忘れて酒屋一本でやっていこうと決心したのです。努力また努力で商売の道をひた走ってきました。炭鉱の時代は商売も賑やかでしたよ。客は炭住から一升瓶を持ってやってきて、量り売りの酒や焼酎を買っていくのです。当初配達はなかったのですが、心機一転、商売人では私が最初にバイクや車を取り入れて配達を開始しました。売上げも上々で、配達に行った先でそのまま上がり込んで皆で飲みあった経験も一度や二度ではありません。あの頃の楽しみといえば、夜9時頃に店を閉め、夕食とともに一杯やること。炭住でも給料日の翌日は飲んでどんちゃん騒ぎですよ。喧嘩や揉め事も日常茶飯事でしたが、それをつずつ解決していくことも仕事のようなものでした。若い頃の荒くれ人生があったからこそ今の自分があると思っています。

人が親しみやすく、人情味あふれているところは今も昔も変わっていません。長く暮らしてきた実感として、住むには最高の町です。町長を始め行政の尽力で、炭鉱の町は様変わりし、施設の充実した素晴らしい町へと発展を遂げました。また、「産業まつり」や「四季の丘フェスタ」にも毎年多くの来場者

があり、商工会でも皆様の協力には非常に感謝しております。商店街活性化においては、難しい問題も様々にありますが、「地域通貨スマイル」の取組みも徐々に成果を見せています。さらに、国道34号線の「グルメロード北方」のPR計画を皆で盛り上げ、より良き町づくりのため、今後も地域貢献に尽力したいと思います。



この町に、私の人生の全てがあります。



江頭 信夫 さん

INTERVIEW

30代前半で酒屋業を営み、現在ギフトカタログ販売の「シャディ」の経営にも携わる。9代目北方町商工会会長。

北方町の教育現場に 灯りを照らして。



石丸 三郎 さん

小学校15年、中学校11年の教員生活を経て、昭和61年より平成12年まで教育長を務める。

INTERVIEW



『教育の灯』全175号

長崎に勤めていた父が北方へ帰郷したのが昭和14年、私が小学6年の時でした。当時は炭鉱の全盛時代で人口も多く活気にあふれていました。自然も豊か、川は澄み、そして深く、魚が沢山すみついていました。これらは少年達の川遊びの獲物となり夕餉の食卓に上がる蛋白源でした。貧しくても、人々の心はおだやかでした。

終戦はインドネシアのアンボンで迎え昭和21年に復員しました。22年4月から教職に就き爾来、歩み続けて39年。沢山の思い出があります。江北小学校では、難関だった珠算検定試験に向けてそろばん指導を放課後に行っていました。帰りは児童を自転車の荷台に乗せて家まで送る日が続きました。そして試験は、1級～6級まで学級54名全員が合格したのです。その時、ひとりのお母さんが赤飯を炊いてリヤカーで学級全員に届けてくださいました。有難さに感激して涙と共にいただいたことを思い出します。

“教育は愛”という私の信念は、児童と懸命に向き合ったこの経験がベースになっているような気がします。

北方町教育長になっても、私は児童・生徒と直接ふれあうことを使命としました。たとえ横柄で突っ張った態度の子でも、頭ごなしではなく、気持ちを汲んで接すると必ず心を開いてくれる。実際、北方中学校にはそんな生徒がいましたが、今では道端で会うと明るく声をかけてくれるんですよ。また、教育長就任当初から先生方のための『教育の灯』を毎月発行しました。手書きで生徒指導のあり方や教育の現状などを掲載し、先生方の意識高揚を目指しました。各々の

先生方の努力が実を結び、学力検査ではついに佐賀県の平均点を上回ったのです。教育長として、最高に嬉しい手応えでした。北方町の教育に携われたことを心から誇りに思います。

北方町は近隣町村と比べるとはるかに充実した施設を持つ町です。今後はソフト面のさらなる充実に依る、文化向上を切に願っています。



故郷への思い

故郷は、あの日あの時の私を知っている。
 皆ではしゃいだことも、悔し泣きをしたことも、
 すべてを受け入れてくれた、私の原点。
 遠く離れても、ふと思い出す
 自然の風景や優しい笑顔たち。
 感謝を込め、この町にメッセージを残そう。



Gankodou Tsutsui

本名：筒井泰彦(つついやすひこ)、エッセイスト
 1944年生まれ
 平凡社にて雑誌「太陽」編集に従事。佐賀新聞社で文化部長、論説委員など歴任。元「FUKUOKA STYLE」編集長。
 現在、フリー。
 著書に「梅安料理ごよみ」(共著)、「必冊 池波正太郎」など



筒井 ガンコ堂さん



田舎育ちの幸せ



野越の下の水溜りで遊ぶこどもたち

私は父の赴任先であった大阪・岸和田で昭和19年5月に生まれている。父が先の戦争で召集されて入隊したのを機に母は、4歳年上の兄と生まれて間もない私を連れて、北方町志久4300番地の、自分の実家に帰った。翌年、戦争が終結して帰還を許された父はそのまま私たちの住む家に戻り、県内で学校教師としての生活を再開し、結局、一家は以来ずっとそこで暮らすことになったのである。やがて2歳年下の弟が生まれ(その後に妹も生まれる)、そのころから私の記憶は始まる。昭和20年代の前半からである。そして、中学・高校は佐賀市へ通うことになったが、生活そのものは北方町であったから、私のこどもとしての成長はすべてとっていいくらいに北方町に負っている。

何より「焼米」という地名は、幼い私のすべてを包んでくれている。焼米の溜池(私たちはツツミと呼んでいた)、その堤防(ドテ)、海童神社、その裏山、そこに続く金比羅さん…。思い出すたびに、いまでも甘い思いに浸らせてくれる。

それらの場所で、私たちはひたすら遊んだ。当時のこどもにとって遊びこそが生活の中心だった。夢中になって遊びながら、しかし、知らず知らずの裡に、人間として本当に大事なことを学んでいたのである。そのことを、現代の風潮と比べて、とてもありがたいことだと思っている。

中心は何といってもツツミだった。まだ泳げない子たちは、野越とその一番下に作られた水溜り、さらに六角川に流れ込む短い川の、焼米橋

の下辺りまでが遊び場だった。水はきれいで、魚もいた。堅い大きめの石に軟らかい色のついた石をこすりつけて、それが色水となるのを面白がりたりした。苔の生えた野越を、両手に小石を持ってスピードを調節しながら滑り下りるのを繰り返した。やがて、小学生の中学年になると、泳ぎを覚えた。そして、溜池の北方に半島のように突き出した「明神さん」まで泳ぐようになると一人前なのだった。夏休みになると午前、午後、夕方と一日三回も泳ぎに出かけ、水着の乾く間もなかった。泳ぎ疲れると、金比羅さんに登り、眼下の家並み、国道、六角川の流れ、時折通る佐世保線の汽車・貨車、さらに武雄の方面、白石、大町の方面へと眺めわたし、いつか自分もあの汽車に乗って、どこか遠くへ行くことがあるのだろうか、などと考えていたものだった。

夏以外は、海童神社とその裏山が私たちの絶好の遊び場だった。本殿のわきには小さな湧水があり、喉の乾いたこどもたちの水飲み場だった。境内ではゴムボールで野球もした。木という木には登った。ターザンごっこもした。ああ、こんなことを書いていたらきりがない。

私たちは、いわば自然とともにあった。その季節ごとの美しさを知らされた。その大きさも教えられた。そんな自然に包み込まれることの安心があった。時どきはこどもながらに切なくなることがあった。そんな幼い日々が、紛れもなく現在の私の出発点であったことを、私は懐かしく、ありがたく思うのである。

江口 智子さん

我がふるさと



Tomoko Eguchi

昭和35年生まれ。当時は西杵に在住。
9歳まで北方町で過ごす。
現在はガラス工芸の道へ進み、
長野県にアトリエを構え、在住。



私は小学校四年の新学期初頭まで北方に住んでいました。当時、北方小学校の近くには石炭運搬専用のゴンドラが忙しげに行き来していて、そのケーブルからでる音を耳にしながら通学していた。

小学校正門際に何軒かの文房具屋が軒を並べ店先の台の上には処狭しと小品が無造作に置かれてあり朝から割りと繁盛していた。その中から素早く新製品を見つけ出すのが登校時の楽しみだった。価格は大体の物が10円から20円くらいで買えるものが多く、子供の意思で買うとすればこの辺が値ごろだった。それにしても今、10円、20円で何が買えるだろうかインフレは困ったものです。

さて、一日の中で一番楽しいひとときは放課後から家へ帰り着くまでの道中だったかも知れない。ある時は、お馴染の犬達に残しておいた給食のパンを配りながらのコミュニケーションを保ち、またある時は、小川の側にランドセルを放って時間が過つのも忘れ、薄暗くなるまで“ドンコ”や“ザリガニ”、“鮒子”など捕まえるのに無我夢中になっていたことを思い出したりしては昔を懐かしんでいる。

いつ頃だったか定かではないが、家族ぐるみで西杵の映画館へは時々見に行っていた。子供向きから一般の大人用までいろいろな映画だったので当時としては内容まで理解してなかったように思う。その中でも、

オオカミ少年ケンや、ジャングル大帝レオなどは好きだった。

今は、農繁期と云う言葉も死語になってきつつある。あの頃は田植のシーズンに入ると、田んぼから小川から、毎夜ホテルの乱舞が見られ、豊かな自然があふれていた。また稲刈りの頃には一面黄金色に輝き、その向うに太陽が沈むすばらしい光景は今も脳裏に焼きついている。

炭鉱閉山のため、やむなく大阪行きを決心し

た両親だったが、引越をせず当地に留まって居たらどんな人生を送っていたらどうか。私は美術関係の仕事をしているが、生物学者になっていたかも知れない。僅か九年間の北方生活でしたが、幼い頃の自然体験や、あの山、あの河、あの畦道、美しい北方のロケーションが私の感性の土台になっていると思います。



井上 克也さん

ふるさと、北方町

Katsuya Inoue

昭和39年生まれ。東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程修了。
文部省日本学術振興会特別研究員、フランスのルイ・パスツール大学客員教授などを経て、現在広島大学大学院理学研究科教授を務める。平成8年、井上科学振興財団・井上研究奨励賞受賞。

友近きて吾にいかほど時在りか 夢は野山を馳ける幼な日

余命が見えてきた年老いた人の詩であるが、この詩は人生において楽しかった思い出はやっぱり幼少のころのことであると、うけとれる。ふるさとを懐かしむ印象は多分、幼少時期を過ごしたからなのであろう。幼少の時期は、何もかもが新しく、希望に満ちた時期であって誰もが人生において楽しい時期を過ごし、その時期を過ごした場所がふるさとであると考えれば、合点がいく。言い換えれば、ふるとは誰もみんなにとつて、生涯持ち続ける印象を形成する極めて重要な場所と言うことになる。このようなことを考えると、ふるさとを企画・設計する地方行政が重要になってくる。どうしたらいいのか？私は自然を残すことが重要であると考え。18世紀の有名な哲学者が「幼児は偉大な哲学者だ」といった人がいる。その哲学者は、以下のようなことから結論にたどり着いている。すなわち今、目の前にリンゴが宙に浮いているとする。それを大人と幼児が見た場合、どちらが驚くであろうか？大人はびっくりするであろうが、幼児は驚かない。大人が驚くのは、リンゴが宙に浮くなどということが起こるはずがないと思っているからであって、これは大人の考え方が「浮くはずがない」と制限されていると見るのである。考え方が制限されるよりも制限されていない方が、純粋な哲学者であるというわけである。この考え方は必ずしも正しいとは言いが、大人がつくった模倣自然や遊具などは制限された考えの持ち主が作り上げたもので、本当の自然にはとうてい及ばないと考えられる。幼児が受け取る情報や楽しみは、大人が作った物ではなく、自然からがはるかに多いと考えるべきである。だからだと長くなってしまったが、私は北方町が好きである。松本町長以下、行政に携わる人々の努力のお陰で、自然が他の地域より多く残っている。今後も行政の方々が努力し、すばらしいふるさとに保っていかれるようお願いしたい。

私が北方町を出てから約20年が経った。これまでを振り返ってみると、東京、神奈川、愛知、広島と、図らずも北方町に近づいて来ているようである。東京に行くとい面白く話がある。東京に転勤や修学で出てきた人が住居を決める際、関西、九州などの西から来た人は、世田谷、神奈川など東京の西部に、東北や北海道など、北から来た人は、北区、埼玉など北部になぜか決める傾向があるようだ。東京周辺にすむ場合でも、ふるさとに帰る場合はどっちみち都内に一度行く必要があるにもかかわらず、である。東京周辺の住宅地の分布にも、傾向が見られる。東京周辺の住宅地は、西部が最も多く、次に北部地域、東部は西部や北部に比べると、幾分少ない。これは日本の西部の人口が多く、北部が少ないためと思われる。このような傾向は何が一体作用するのであろうか？ふるとは住み易く、知り合いも多いから帰りたい人っている人が多いのであろうか？しかしこの説は間違っている。九州等、日本の西部出身者で東京近辺に住んでいる人でも、東京周辺が住み易いと考え、定住する人も多い。それらの人々は、ふるさとに帰る意志は無いと考えられるが、でもなぜか東京の西部に住むのである。なぜだか本人にもわからないが、ふるとは懐かしく、少しでも近くにいたいと心理的な傾向があるのである。このように考えてゆくと、この問題は、簡単ではないことがわかる。この問題は、ふるさととは何か、を考える必要があるように思われる。この問題を解く手がかりとして、「宇竹」という知人の短歌がある。

子供たちが
描く

未来の北方町

●北方小学校5年生

井上 沙也佳さん



私が描いた「北方町の未来図」は、子どもからお年寄りまで自由に動物とふれあったり、アーチェリーやゴーカートなどで遊び、さらに自然と親しむ

ことができる公園です。北方町は自然が多く、秋には色とりどりの紅葉が見れて、近所とのあいさつもよくできているなどいいところがたくさんあります。地いきの行事などもみんなが参加して楽しむ町です。将来は、よその町の人々がたくさん北方町へ来てくれて、もっとにぎやかな町になってほしいと思います。



●北方小学校5年生

小林 大和くん

北方町の好きなのは、自然がのこされているところです。山に入れば、大きいクワガタやカブトムシがたくさんとれます。「四季の丘公園」である祭りのトロコレースも自慢です。この絵は、たくさんのビルや店、べんりな空港を自然がいっぱいの展望台から見ているところです。山や川などの自然はずっと変わってほしくないから、自然の中にたくさん店があったり、べんりなしせつがあったりする、み力ある町になっていったらいいなと思います。



●北方小学校5年生

山口 裕加さん



佐賀県には遊園地が少ないので、大きなすべり台やジェットコースター、かんらん車、海水浴場もある、県で一番の遊園地ができたらいいなと思ってかきました。将来は、公園もふえて明るく楽しい町になってほしいです。北方町は、みんなが親切で仲間いしきが強く、近所のきずなが強いところがいいと思います。一人一人が協力しあい、助け合っていることはすばらしいと思います。また、田んぼや緑が多く、自然がたくさんあるところも自慢です。

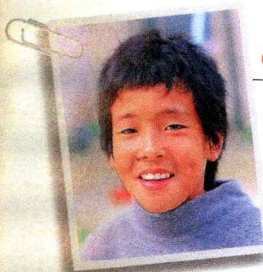
緑のある北方町



●北方小学校6年生

古井 望夢さん

未来の北方町は、緑が多く、いろいろな花が町中にさき、動物も多くの種類とふれあえる町であってほしいです。私の今までの一番の思い出は、サルやキツネ、タヌキを見たことです。だから、緑があって生き物のびのびと生きられる町はすてきだと思うのです。どこを見ても自然がたくさんある北方町に、変わってほしいところはありません。でも、緑だけは絶対に減ってほしくないです。もし自分が町長なら植樹をたくさんしたい。北方町の緑は、気持ちがおちつきます。



●北方小学校5年生

山口 悠太くん

僕は、青空の下で、緑いっぱいの大自然を感じながら、みんなが楽しく遊べる町が最高だと思います。北方町は田んぼや森の木が豊かで、緑がきれいなところがとてもおちつきます。

ねころがって遊べる野原があるともっとうれしいです。友達といっしょにカブトムシやセミなどをつかまえた思い出を作ることができたのは、北方町が自然に恵まれているおかげです。合べいしても、緑の町・北方であってほしいです。



●北方小学校5年生

奥野 香澄さん

今の地球は自然の森や林が少なくなっているの、自然を大切にしてほしいという願いを込めて描きました。私の住みたい町は、さんばがしたくなる自然の多い町です。北方町は、自然を守る取組みをしています。自然かんきょうのいいところでしか育たないホテルが飛ぶのは、町の自慢です。田園風景もそぼくで大好きです。いなかだけどふべんだとは思いません。これからも自然豊かな町にするために、木や森や川などをほごしてほしいと思います。



北方四季



歴史浪漫

北方町は歴史の宝庫。
貴重な財産が眠っている。

肥前風土記と杵島

肥前風土記によると「杵島」の地名はその昔、天皇が船でこの地に来た時に船を泊めた場所が自然に島になったということから由来するといわれています。また、記述にある「杵島の郡(こおり)」は古代官道、地形、方位などから現在の北方町志久周辺と推測され、この地方の古代行政の中心地であったといえます。

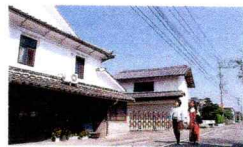
一里塚に込められた、旅人の夢跡 “長崎から江戸へ…文化のシルクロードの休憩地”

長崎街道・北方宿

日本が鎖国を行っていた時代、長崎街道は世界へ開かれた唯一の扉でした。長崎の出島から入ってきた海外の新しい文化、情報は、小倉から長崎までの全長228kmに及ぶ道筋を通して運ばれていったのです。

北方宿は長崎街道25宿のうちの一つで、多くの旅人が行き交い、そして宿泊しました。

町内には今もなお当時の面影を残しているものがいくつかあります。「北方宿本陣」(稗田家)の建物は天保10年(1839年)に建てられたもので、昔のままの構造を今に残しています。日本地図を作成したことで有名な幕府測量方の伊能忠敬も、この地に宿泊しました。行き交う旅人を導き、見守ってきた「北方宿駅」の道標は、今は裏通りにあります。長崎街道が塩田道と伊万里道に分岐した「追分」には、多くの旅人たちが旅の安全を祈願したであろう祠が今もひっそりと佇んでいます。



“北方を舞台とした、人と自然の歴史”

きたがた四季の丘資料館

焼米溜池に面する丘の上に建つ「きたがた四季の丘公園資料館」。ここでは北方町の歴史に触れることができます。資料館は3階建てで、1階は炭鉱関係、2階は農業関係、3階は光のホールとなっており、入り口は坑道をイメージしてつくられています。

また、展望台からは鬼ノ鼻山、徳蓮岳、そして杵島山を背景に焼米溜池を一望でき、四季折々に色づく山々の美しさを堪能できます。



【炭鉱絵馬
(町重文指定)】



【農耕絵馬
(町重文指定)】

四季彩

杵島山、鬼ノ鼻山、徳蓮岳に囲まれ、中心を六角川が流れる北方町は美しく豊かな自然に包まれた田園風景が広がる町。春・夏・秋・冬、それぞれの季節で表情が変化し、見る人の目を楽しませてくれます。桜が咲き誇る公園、鮮やかな新緑の木々、抜けるような青空、きらめく湖面。目に映る様々な色彩は、見る人の心に色鮮やかな光景を刻んでいきます。



はせの紅葉



大聖寺の冬景色

歳時記

豊穡の大地、北方町。
そこは明るい元気な町。

四季の丘フェスタinきたがた



毎年4月に四季の丘公園で開催されるスポーツ・文化イベント「四季の丘フェスタinきたがた」。
メインイベントである「人間競馬トロッコレース」の迫力は圧巻！もう一つの楽しみの「仮装レース」では会場が笑いの渦に巻き込まれます。



季節のまつり

北方町には季節を飾る様々な歳事があります。日本三大不動尊の一つ「大聖寺お不動さんまつり」、初夏を薄紅色で彩る「高野寺しゃくなげ祭り」、境内一面がアジサイの花で埋め尽くされる「大聖寺あじさい祭り」、町民総出で賑やかに踊る「北方町盆踊り大会」など。



伝承の浮立

北方町の伝統の祭り「志七七囃子浮立」は稲主神社に伝わる祭りで、750年の伝統を持つ由緒ある踊りです。その昔、飢饉で多くの人が餓死したのをきっかけに始まったと言われています。また、大崎八幡神社では「子供浮立」が奉納されます。
先人たちの「平穏無事な暮らしを。」との願いが込められた伝統の祭り「浮立」。

産業まつり

毎年11月、運動公園グラウンドに町の魅力、元気が大集合！自慢の農産物の品評会や農産物、特産物の販売、商工会によるバザーなど町の魅力が一度に楽しめます。また、毎回多彩なゲストを招いてのステージアトラクションは大きな楽しみの一つとなっています。



文化祭

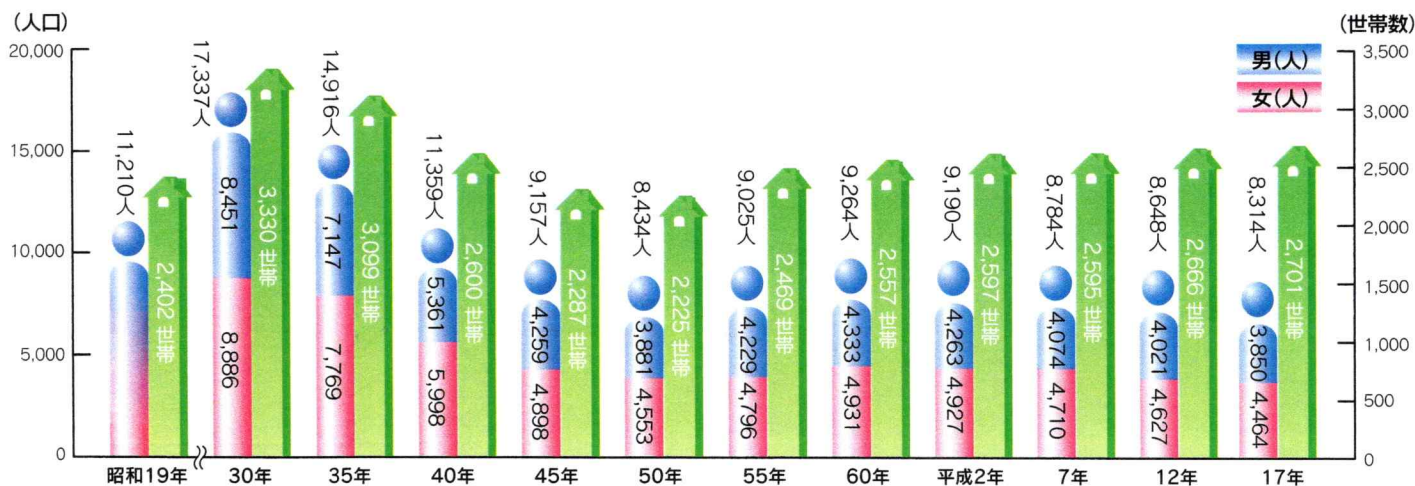
11月3日文化の日、この日は町民の方の日頃の練習の成果が北方町中央公民館で発表されます。コーラスや日本舞踊など、催し物が行われたり、町民の方の様々な作品が展示され、館内は文化一色で染まります。また、屋外では野だてや菊の鑑賞会も行われます。



データで見る北方町の推移

人口

■人口・世帯数の推移



(資料: 国勢調査(昭和19年～平成12年)・市町村集計(平成17年))

議会

■歴代議長

氏名	在任期間
平川 文六	昭和30.5～昭和34.4
徳永 稔	昭和34.5～昭和38.4
岩谷 貞八	昭和38.5～昭和42.4
川原 政也	昭和42.5～昭和45.9
溝口利喜由	昭和45.9～昭和46.4
岩本 馨	昭和46.5～昭和50.4
伊藤伊勢男	昭和50.5～昭和62.4
久保 昭男	昭和62.5～平成 7.4
徳永 利太	平成 7.5～平成11.4
黒岩 幸生	平成11.5～現在

■歴代副議長

氏名	在任期間
岩瀬 栄次	昭和30.5～昭和34.4
梶原 善六	昭和34.5～昭和37.10
川原 政也	昭和37.11～昭和38.4
岩永 巖	昭和38.5～昭和40.1
山田 正司	昭和40.1～昭和42.4
岩谷 貞八	昭和42.5～昭和45.9
村山 勝次	昭和45.9～昭和46.4
岡 次男	昭和46.5～昭和50.4
川口 博憲	昭和50.5～昭和54.4
鶴崎 薫	昭和54.5～昭和58.4
久保 昭男	昭和58.5～昭和62.4
徳永 利太	昭和62.5～平成 7.4
黒岩 幸生	平成 7.5～平成11.4
池田 正義	平成11.5～現在

■名誉町民

田中 耕太郎 昭和42.3.14 議決
松本 和夫 平成17.6.22 議決

行政

■歴代町長

氏名	在任期間
田中 関一	昭和19.4～昭和20.2
榊田 禎史	昭和20.2～昭和21.11
松本 三夫	昭和22.4～昭和26.4
田崎 四郎	昭和26.4～昭和30.4
諸石 高次	昭和30.5～昭和34.4
松本 三夫	昭和34.5～昭和38.4
田中 関一	昭和38.5～昭和45.8
宮原 五郎	昭和45.9～昭和49.9
松本 和夫	昭和49.9～現在

■歴代助役

氏名	在任期間
平川 文六	昭和19.4～昭和19.8
松本 佐八	昭和19.9～昭和20.3
徳永 稔	昭和20.4～昭和20.10
本村 一弘	昭和20.10～昭和21.4
諸石 高次	昭和21.5～昭和22.2
北島 秀雄	昭和22.5～昭和26.5
原 南八	昭和26.6～昭和30.6
松本 佐八	昭和30.6～昭和34.6
岩永 一	昭和34.7～昭和35.9
中島 茂文	昭和35.10～昭和38.7
山崎 貞次	昭和38.8～昭和39.11
松本 佐八	昭和40.3～昭和42.7
宮原 五郎	昭和42.8～昭和45.8
吉岡 譲	昭和46.3～昭和49.9
諸石 茂	昭和50.7～平成3.6
本村 勝	平成3.7～平成7.7
徳永 正敏	昭和7.7～現在

■歴代収入役

氏名	在任期間
北島 秀雄	昭和19.4～昭和22.2
吉永 春次	昭和22.2～昭和23.3
中島 茂文	昭和23.3～昭和35.9
村山 勝次	昭和35.10～昭和39.9
吉岡 譲	昭和39.10～昭和46.3
榊田 朴三	昭和46.3～昭和50.3
岩瀬 末次	昭和50.7～昭和58.6
本村 勝	昭和58.7～平成 3.6
徳永 正敏	平成3.7～平成 7.7
蒲原 義光	昭和7.7～現在

北方町制施行60周年 (合併50周年)記念式典



2005年11月6日、

北方中央公民館にて行われた式典には、
約400人の関係者や町民の方が出席し、
北方町の誕生60周年を祝いました。
「北方町今昔物語」のビデオ上映や
町政功労者表彰などが執り行われ、
最後は万歳三唱で町への感謝と
今後の発展を確かめました。



Ceremony

記念イベントとして、
著名人の講演やライブが
北方スポーツセンターで

開催されました。

心に響く話あり、爆笑の歌ありで、
盛り上がりを見せました。



会場はとてもアットホームな雰囲気。何度も笑いが巻き起こり、あつという間のひとときでした。



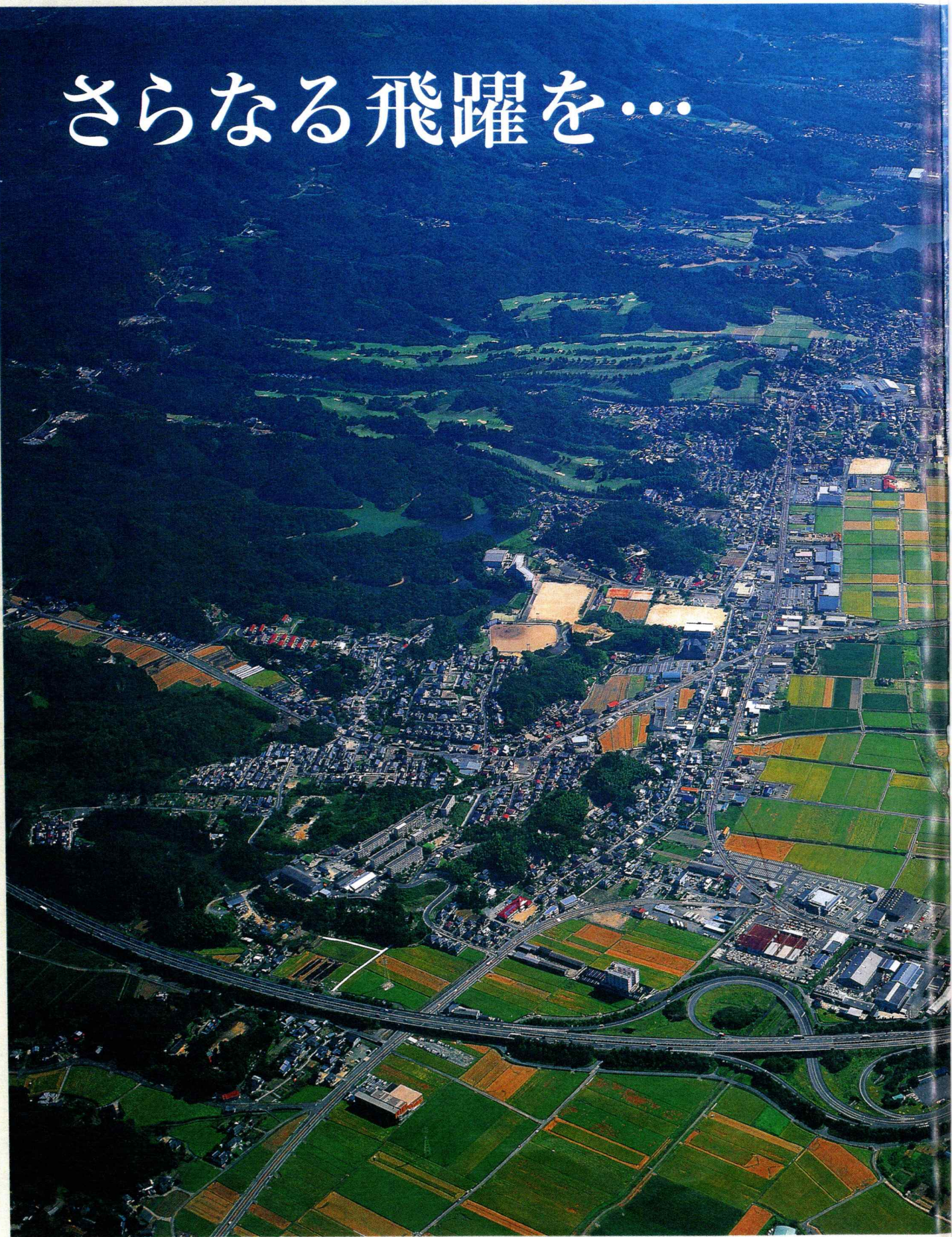
独特の歌詞とお馴染みのノリの良さで会場を沸かせた嘉門達夫さん。ライブの様子はFM佐賀でも放送されました。



「二郎さんのちょっといい話」と題して講演を行った坂上二郎さん。北方町民の心をギュッとつかんでくれました。

Event

さらなる飛躍を…



写真資料提供：岩本眞眞館(岩本富士)、鎌山佐智子(旧姓馬場)、馬場フクエ、宮地恵子、永源寺住職(杉岡龍道)、上野正昭、大賀二郎、三丸昭治、筒井ガンコ堂、江口智子、井上克也、永原光彦、北方町役場企画課、北方町教育委員会、北方町小学校、北方町中学校、北方町中央公民館、北方町商工会、大崎保育園、佐賀新聞社、武雄ケーブルテレビ、国土交通省佐賀国道事務所、国土交通省武雄河川事務所(順不同、敬称略) ご協力ありがとうございました。

企画・制作：株式会社 ディックプランニング TEL 0952-34-5050



町制施行60周年を迎えて

北方町は昭和19年4月に町制施行、昭和31年4月に橋下村の一部6地区と合併し、新しく北方町が誕生してから平成16年に町制60年を迎え平成18年4月には合併50年を迎えます。

その間、先輩各位をはじめ町議会、そして多くの町民の皆様とともに、社会基盤の整備、町民福祉の充実、教育文化の振興、基幹産業である農林業の振興などを図り北方町は大きく発展して参りました。ここに至るまでには数々のご苦労、困難があったことと思いますが、幾多の試練を乗り越え今日の北方町を築き上げられましたことに深甚なる敬意を表すとともに心から感謝申し上げます。

さて、本格的な地方分権の時代を迎え、時代の大きなうねりの中で急速に進展する少子高齢化の波、高度情報化の進展、産業の低迷、地球温暖化をはじめとする環境問題、さらに市町村合併など時代とともに様々な課題・難題が山積みとなっています。世はまさに激動期を迎え財政的にも厳しい状況下にあります。町民が安心・安全に生活できるように、また豊かで生きがいをもって暮らせるように日々努力して参るのが我々の使命であると考えております。

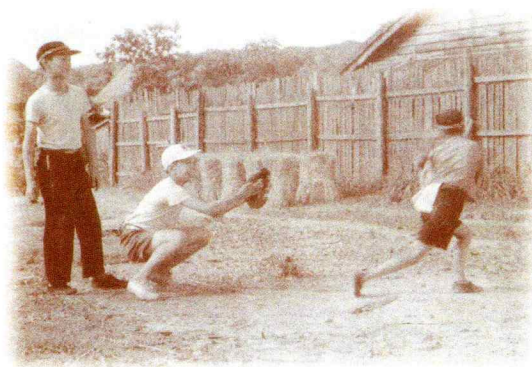
今後も遺された自然環境や数々の遺産を大切に伝承し、これまでの施策を継承しながら北方町の特色・特徴を失うことなく町民の皆様のお力を頂きながら、今以上に素晴らしいまちづくりを目指して参りたいと存じます。

町制60周年、合併50周年という新たな節目は、わが町にとって町制としての有終の美を飾り新たな市制へのステップとなる時です。これを記念して北方町の60年の歴史を後世に伝えとともに、町民の皆様と歩んで参りました北方町の多くの思い出を深く記憶にとどめて頂くことを願い、記念誌を発刊することに致しました。この記念誌の作成にあたり、寄稿及び写真等の提供にご協力いただきました多くの皆様には心から感謝申し上げますとともに、町民の皆様、また北方町にお心を寄せていただきましたすべての皆様に厚く感謝申し上げます。

平成17年12月
北方町長 松本和夫



今、伝えたい、
ふるさとの記憶。



Handwritten signature or mark.



編集・発行／北方町役場企画課

〒849-2201 佐賀県杵島郡北方町大字志久 1557 番地
TEL 0954-36-2511(代)